

2025 年の世界の喫煙削減目標は達成可能か？

1. 発表者：

ビラノ バー（東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学 博士課程大学院生）

ギルモア スチュアート（東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学 助教）

渋谷 健司（東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学 教授）

2. 発表のポイント：

- 世界全体では喫煙率は少しずつ低下しており、2000 年から 2010 年にかけて、男性の喫煙率が 125 カ国（72%）、女性では 156 カ国（88%）で減少した。
- アフリカや中東の国々では今後喫煙率は増加し、2025 年時点で喫煙人口は 11 億人に達し、たばこの使用が世界的に広がるリスクがあると予測された。
- 多くの国で 2025 年までのたばこ使用の削減目標が達成される見込みは低いと示唆された。

3. 発表概要：

世界保健機関（WHO）の世界モニタリング枠組に従い、WHO 加盟国は 2025 年までに、たばこ使用を削減する目標を達成することに合意している。これまで、この削減目標が達成可能であるかどうかを検討した研究はなかった。

今回、東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学の渋谷健司教授、同博士課程ビラノ・バー大学院生、ギルモア・スチュアート助教らは、WHO 及び豪州ニューカッスル大学との共同研究により、多くの国で 2025 年までにたばこ使用の削減目標が達成される見込みは低いとの結果を得た。

研究チームは、たばこ規制に関する WHO 包括的情報システムのデータと最新の統計解析モデルを用いて、喫煙率に関して、1990 年から 2010 年までの動向を検証し、2025 年までの将来予測を行った。

世界全体では、喫煙率は少しずつ低下しており、2000 年から 2010 年にかけて、男性の喫煙率が 125 カ国（72%）、女性では 156 カ国（88%）で減少した。しかし、アフリカや中東の国々では今後、喫煙率は増加し、2025 年時点で喫煙人口は 11 億人に達し、たばこの使用が世界的に広がるリスクがあると予測された。

2025 年までのたばこ使用の削減目標を達成し、たばこ使用を世界的に根絶するためには、即座に効果的かつ持続的な世界的なたばこ規制が必要であると結論付けられた。

4. 発表内容：

背景

世界保健機関（WHO）の世界モニタリング枠組に従い、WHO 加盟国は 2025 年までにたばこ使用を削減する目標を達成することに合意している。これまで、この削減目標が達成可能であるかどうかを検討した研究はなかった。

研究内容

渋谷健司教授らは、国の代表値となる世帯調査を用いた喫煙率を分析し、喫煙の最新動向及び将来予測を包括的に推計し、各国のたばこ使用の削減目標についてその達成の可能性を検討した。

具体的には、たばこ規制に関する WHO 包括的情報システムのデータと最新の統計解析モデルを用いて、173 カ国の男性及び 178 カ国の女性における、4 つのたばこ使用に関する指標について、1990 年から 2010 年までの動向を検証し、2025 年までの将来予測を行った。さらに、それぞれの削減目標が達成される確率について分析した。

その結果、2000 年から 2010 年にかけて、男性の喫煙率が 125 カ国（72%）、女性では 156 カ国（88%）で減少した。この傾向が継続した場合、37 カ国（21%）が男性の削減目標を達成できる見込みであり、女性では 88 カ国（49%）が達成できる見込みと推定された。2025 年時点の喫煙人口は 11 億人と予測された。アフリカでは男性、東地中海では男女ともに急激な喫煙率増加が予測され、これらの地域における対策強化の必要性が示唆された。

今後の課題

本研究から、国家間の著しいたばこ使用格差は 2025 年まで続くことが予想され、多くの国で 2025 年までにたばこ使用の削減目標が達成される見込みは低いと予測された。さらにいくつかの低中所得国は、現在の傾向が継続した場合、たばこの使用が世界的に広がるリスクがあると予測された。たばこ使用の削減目標を達成し、たばこ使用を世界的に根絶するためには、即座に効果的かつ持続的なたばこ規制が必要であると結論づけられた。

本研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)一般「我が国の疾病負担 (Burden of Disease) に関する包括的研究 (25253051)」及び厚生労働科学研究費補助金(地球規模保健課題推進研究事業国際的基準に即した日本の保健医療システムに関するレビュー研究 (26030101))の一環として行われた。

5. 発表雑誌:

雑誌名: The Lancet 2015 年 3 月 14 日号 385: 966-76

論文タイトル: Global trends and projections for tobacco use, 1990-2025: an analysis of smoking indicators from the WHO Comprehensive Information Systems for Tobacco Control.

著者: Ver Bilano, Stuart Gilmour, Trevor Moffiet, Edouard Tursan d' Espaignet, Gretchen A Stevens, Alison Commar, Frank Tuyl, Irene Hudson, Kenji Shibuya.

6. 問い合わせ先:

東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学 教授

渋谷 健司 (しぶや けんじ)

Tel: 03-5841-3688

Fax: 03-5841-3637

E-mail: shibuyak@m.u-tokyo.ac.jp